第 59 回文化講座

発掘調査速報 2014 その 1

【日時】11 月 22 日（土）13：30 ～ 16：00

【会場】沖縄県立埋蔵文化財センター　研修室

第 59 回文化講座

発掘調査速報 2014　その 1

沖縄県立埋蔵文化財センター

第59回文化講座「発掘調査速報2014　その1」

平成26年11月21日（土）　13時30分～16時00分

あいさつ　　沖縄県立埋蔵文化財センター所長　　下地　英輝

海軍病院建設予定地内（普天間古集落遺跡）　　具志堅　清大 …1

円覚寺跡　　金城　貴子 ……4

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇　休憩　◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

首里高校内中城御殿跡　　亀島　慎吾 ……8

首里城跡「東のアザナ北地区・銭蔵東地区」　　新垣　力 ……14

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇　質疑応答　◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

海軍病院建設予定地内 (普天間古集落遺跡)

沖縄県立埋蔵文化財センター
具志堅　清大

調査目的：キャンプ桑江からキャンプ瑞慶覧への海軍病院移転計画に伴う記録保存調査
所在地：キャンプ瑞慶覧内
遺跡名：普天間古集落遺跡
時代：グスク時代、近世～近代
調査期間：2013（平成 25）年 9 月 12 日～ 2014（平成 26）年 2 月 7 日
調査面積：約 4000㎡

調査成果概要 (時代別)

○グスク時代：グスク時代の遺構は、多くのピットや土坑が確認されています。

ピットの平面的な位置関係や埋土を検討し、この中で 4 本柱の掘立柱建物跡を想定することができました。このほかに、深さが 2m 近い大きな土坑も検出されています。これら建物や構造物などの配置からはグスク時代における集落の様相を窺うことができます。

遺物はグスク土器、カムィヤキが僅かに出土しています。

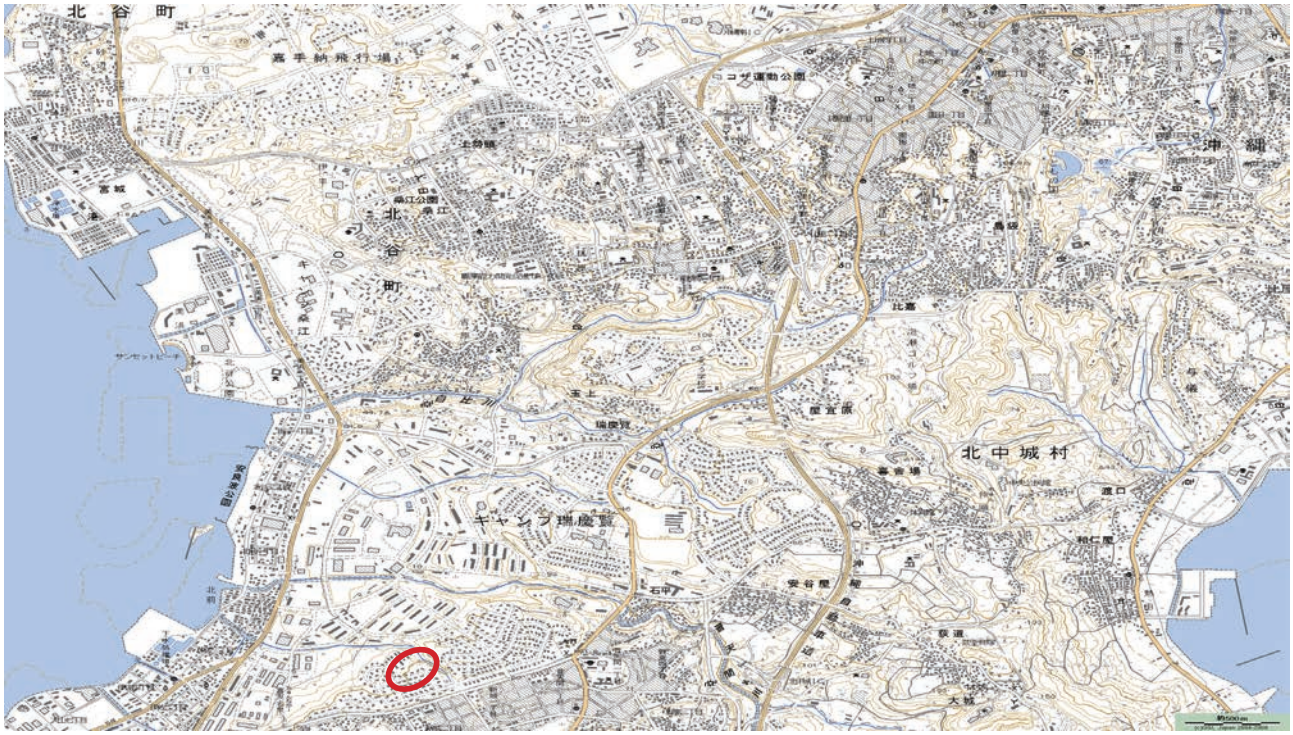
○近世～近代：戦前まであった普天間古集落の様相を窺える多種多様な遺構・遺物が多く確認されています。

遺構は、溝状遺構を中心にピット、土坑、井戸、枡状遺構、避難壕などがあります。

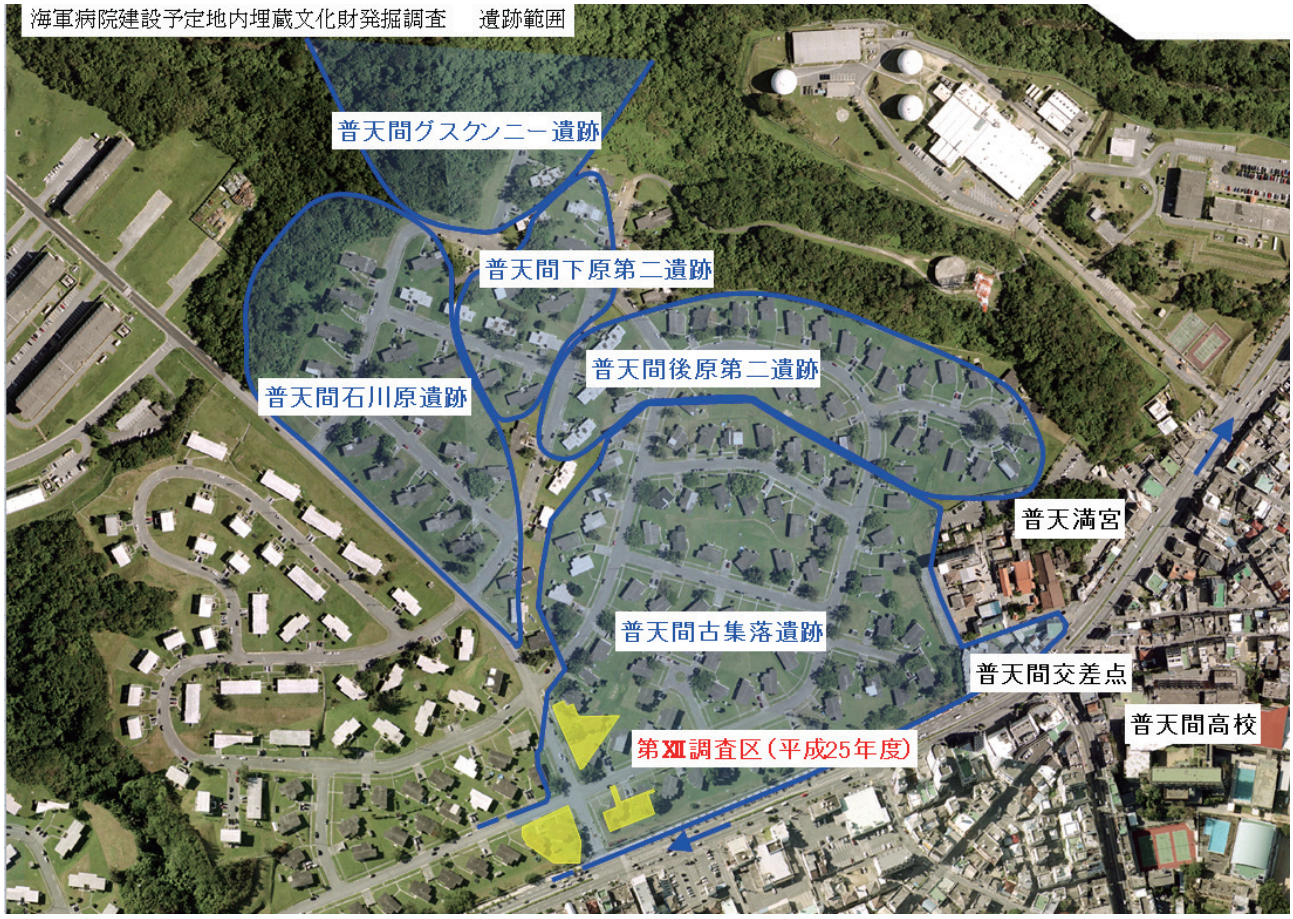
遺物は、沖縄産や本土産の陶磁器を中心に中国産磁器、瓦、金属製品など、多様な遺物が出土しています。

今後の予定

平成 20 年度から実施してきた海軍病院建設予定地内の発掘調査は、平成 25 年度で調査は終了しました (沖縄県調査対象エリア)。現在は、これまでの調査成果をまとめ、報告書刊行に向け資料整理作業を進めています。



第１図　遺跡の位置（キャンプ瑞慶覧内）



第２図　調査区及び遺跡範囲

写真 1　近世建物跡 (1 地点)

写真 2　ピット内銭貨出土状況 (1 地点)

写真 3　枡状遺構 (2 地点 1 面目)

写真 4　避難壕 (2 地点 1 面目)

写真 5　グスク時代建物跡 (2 地点 2 面目)

写真 6　土坑半裁状況 (2 地点 2 面目)

写真 7　溝状遺構 (3 地点)

写真 8　井戸 (3 地点)

円覚寺跡

沖縄県立埋蔵文化財センター
金城　貴子

事業名：円覚寺跡発掘調査
所在地：那覇市首里当蔵町２－１
時代：グスク時代～近代
調査期間：2013（平成 25）年７月１日～ 2013（平成 25）年 10 月１日
調査内容：円覚寺跡三門復元整備に向けた遺構確認調査

１ はじめに

円覚寺とは、1492 年から約 3 年の歳月を経て建造された臨済宗の寺院である。その創建については、尚真王（第二尚氏王統第三代）が父親である尚円王の御霊を祀るために建立されたと伝えられる。

現在は、国の史跡に指定されている。

２ これまでの経過

円覚寺の境内に存在した建造物は、沖縄戦によって焼失したが、往時の姿を復元することを目的に、平成９年から平成 13 年までの５か年間、遺構確認調査が実施された。その調査成果などに基づき、翌年から円覚寺跡の外周を取り囲む石牆の復元整備を実施してきた。平成 19 年度からは、前回未調査部分の遺構調査に着手し、その成果をうけて現在も引き続き復元整備が行われている。

３ 平成 25 年度の調査成果

平成 25 年度の発掘調査は、三門の復元整備に向けた遺構確認を目的として発掘調査を実施した。

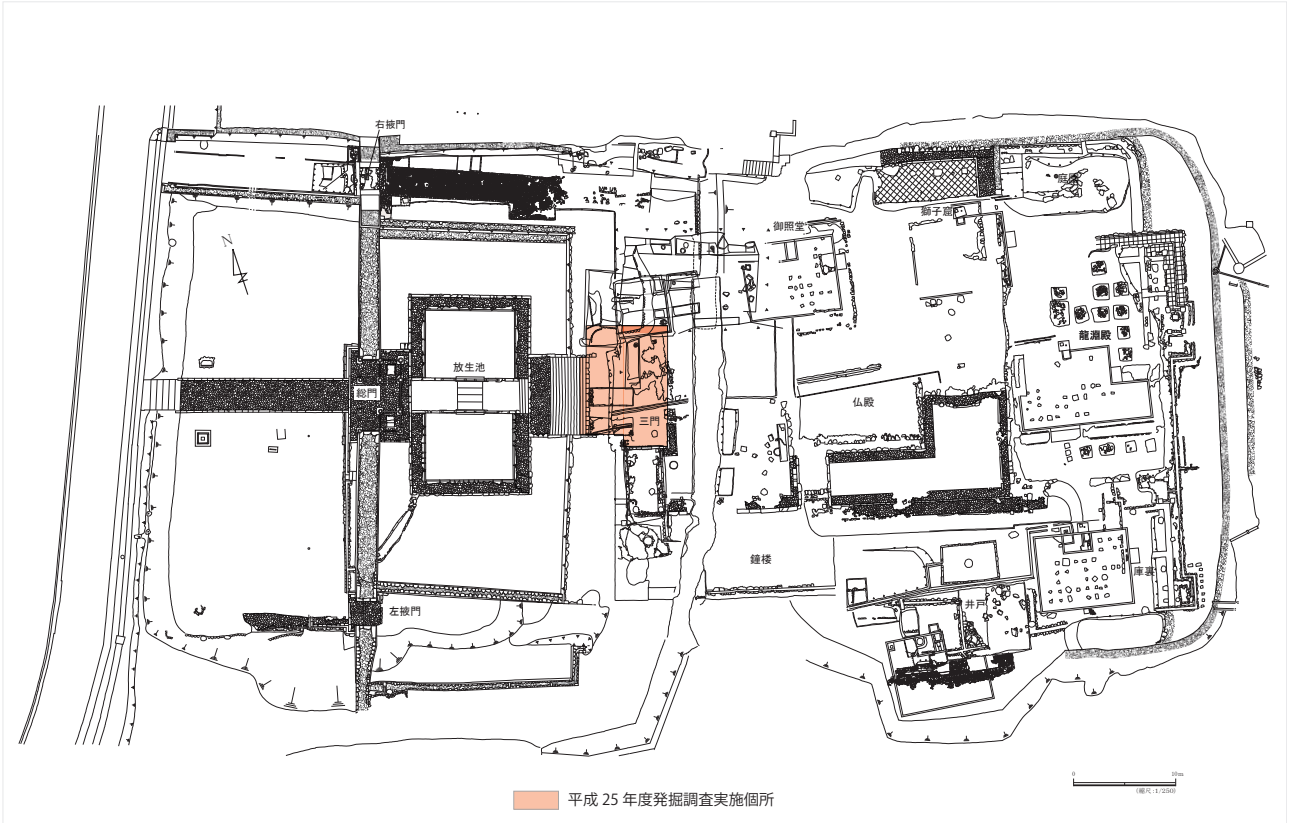
調査の結果、円覚寺における土地の造成事業の痕跡や三門の柱配置の手がかりとなり得る基礎の石などを確認することができた。

主な遺構：石列（図版２）、土留めの石積み（図版３・４）、礎石の基礎の石（図版５）

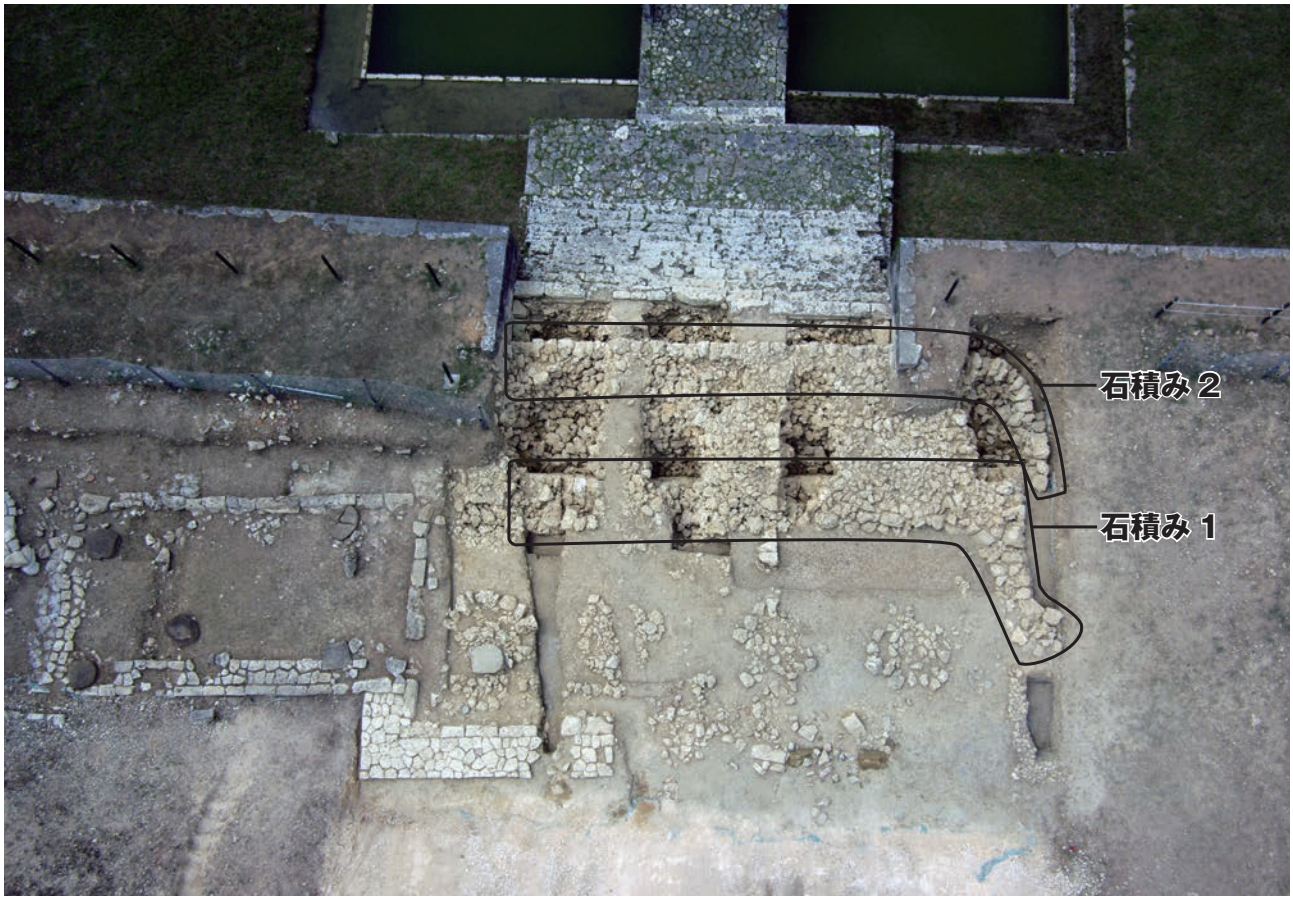
４ おわりに

今回の調査では、遺物の出土は僅かであり、各遺構の構築時期を把握することは難しかった。

今後は、過去に実施された調査成果と照らし合わせつつ、各遺構についてのさらなる検討を進めていきたい。



第 1 図　遺構全体図



図版 1　遺構検出状況 (東から)

図版 2　石列 (北東から)

図版 3　石積み 1(西から)

図版 4　石積み 2(北西から)

図版 5　礎石と基礎の石 (西から)

首里高校内中城御殿跡

沖縄県立埋蔵文化財センター
亀島　慎吾

所在地：那覇市首里真和志町 2-43
時代：中世～近代
調査期間：2013（平成 25）年 7 月 29 日～ 2014（平成 26）年 3 月 28 日
調査面積：5230㎡

1　はじめに

調査経緯：首里高校校舎建て替えに伴う記録保存調査。

平成 23 年度に那覇市教育委員会によって試掘調査が行われ、同年、沖縄県教育庁文化財課によってグラウンドの造成土の掘削が行われた。平成 25 年 7 月末から本調査に着手した。

2　中城御殿について

中城御殿：次期国王となる世子の居宅

新旧の中城御殿

1621 年～ 1640 年創建　首里高校内中城御殿跡

1875 年（明治 8 年）移転　中城御殿跡（旧沖縄県立博物館跡地）

3　首里高校内中城御殿跡

基本層序：大きく 3 つの文化層・遺構がある。

（1）　中城御殿　移転後（近・現代）
（2）　中城御殿　(近世)
（3）　中城御殿　創建以前（グスク時代　15 世紀～ 16 世紀）

中城御殿　移転後の遺構

校舎基礎跡、ゴミ捨て場跡、庭の池の跡など

中城御殿の遺構

平場造成跡、排水施設を伴う井戸、建物跡、建物区画の石積み、まとめて捨てられた食器など

・大規模な平場造成を行い、建物を構築（建物跡に関連する礎石は少ない。）

中城御殿　創建以前の遺構

柱穴、ゴミ捨て穴など

・グスク時代の造成土を確認。
・グスク時代の造成土の上に中城御殿構築の為の造成を行っている。

4　出土遺物

近代～ 15 世紀ごろまでの遺物が出土。中でも、近世期の遺物が多く出土。

（1）中城御殿　移転後

硯やボタンなど、学校関係の遺物が出土。

（2）中城御殿

陶磁器、瓦、金属製品、玉、自然遺物など。

（3）中城御殿　創建以前

陶磁器（青磁、中国産褐釉陶器、タイ産褐釉陶器が多い。）、金属製品、自然遺物など。

5　普及活動　（現場説明会、職場体験）

平成 25 年度

・一般県民対象、首里高校生対象、首里高校関係者対象の現場説明会。

・県内の中学生・高校生対象の職場体験。

平成 26 年度

・首里高校生対象の現場説明会。

・県内の中学生・高校生対象の職場体験。

6　調査成果と課題

・近・現代からグスク時代までの遺物や遺構を検出している複合遺跡。

・傾斜している地形を、造成で平地に形成し、遺構を構築。

・中城御殿の建物区画関連遺構は多いですが、建物本体の遺構（礎石など）は少ない。

・多種多様な遺物が出土。（特に中城御殿当時の遺物が多い。）

・中城御殿当時や創建以前の遺物が、遺物包含層や遺構からまとまって出土。今後、これらの遺物組成を整理していく必要がある。

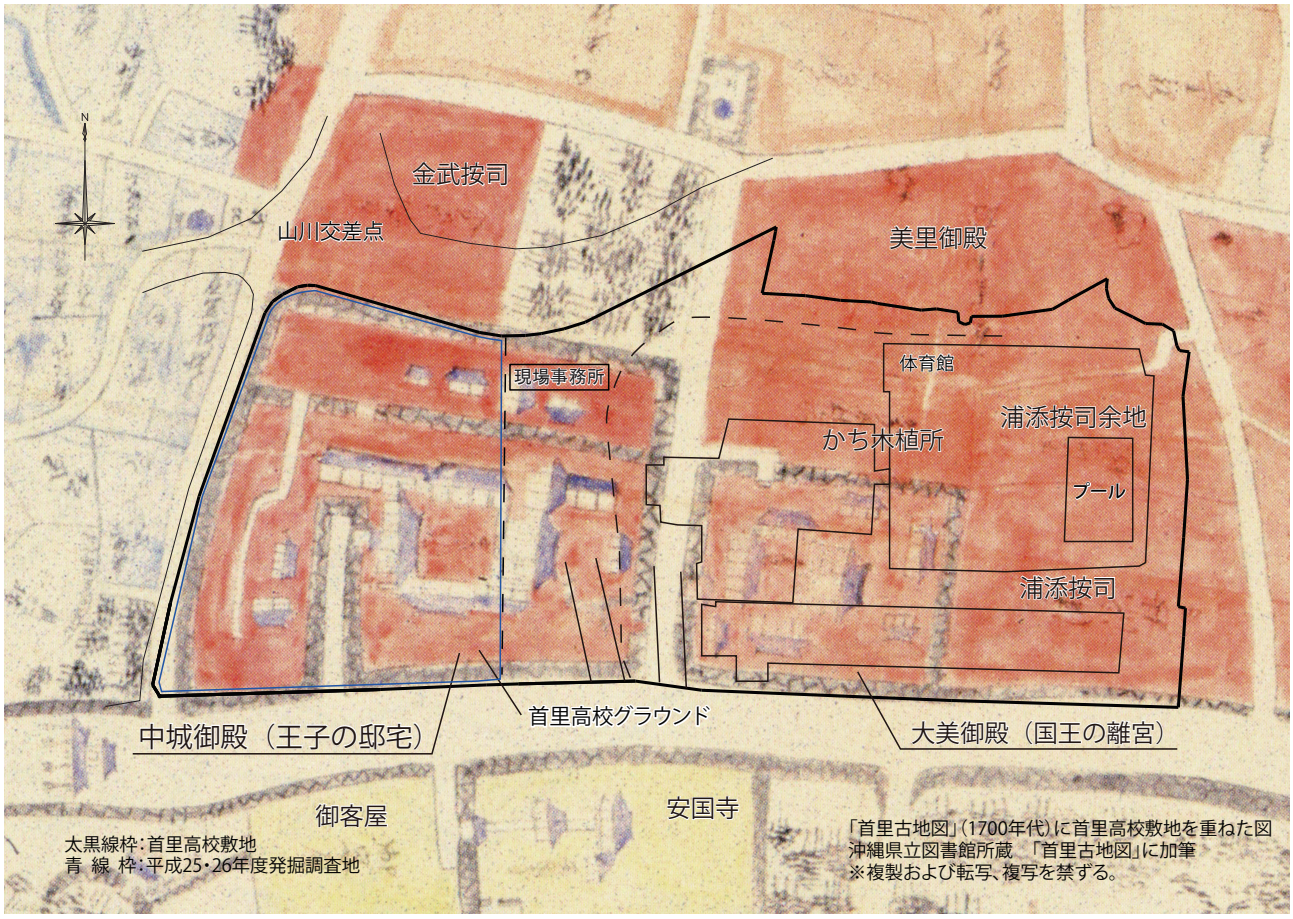
・中城御殿創建以前から中城御殿創建までの状況が判明。

・移転後の中城御殿との比較検討も今後の課題である。

国土地理院数値空中写真 2010 年撮影　C11-12

遺跡の位置

発掘現場全景



「首里古地図」と首里高校校舎配置の重ね図 (※沖縄県立図書館所蔵「首里古地図」に加筆)

井戸の跡 (中城御殿)

井戸と隣接する建物跡 (中城御殿)

まとめて捨てられた陶磁器 (中城御殿)

古地図に描かれた石積み (中城御殿)

ゴミ捨て穴 (中城御殿　創建以前)

首里城跡「東のアザナ北地区・銭蔵東地区」

沖縄県立埋蔵文化財センター
新垣　力

場所：那覇市首里当蔵町３丁目１番（国営沖縄記念公園首里城地区）
目的：首里城復元整備に伴う遺構確認調査
期間：2013（平成 25）年７月１日～ 2014（平成 26）年３月 27 日
面積：約 800㎡
時代：14 世紀後半～ 20 世紀前半（グスク時代～近代）
調査成果

1　東のアザナ北地区

○城壁石積み
※第一尚氏王代（15 世紀前半～中葉）に構築されたと考えられる城壁の一部。廃絶時期は第二尚氏尚真・尚清王代の外郭拡張期（15 世紀後半～ 16 世紀前半）と想定。

○「コ」の字形石積み
※平面形が「コ」の字形になる石積みで、遺構の形態や出土遺物から「城内十嶽」のひとつと考えられる。構築年代は不明。

○洞穴遺構
※垂直に切られた崖面の開口部全体を石積み（中央に出入口１ヶ所とその両端に小孔２ヶ所あり）で塞いだ施設。内部の床面は北側に石粉、南側に石敷きを施し、外部の床面は基壇状に整備される。当初は 14 世紀後半～ 15 世紀前半に構築された墓のような遺構であったが、近代に開口部石積みや内部南側を改変したと考えられる。

○避難壕
※沖縄戦時に細粒砂岩（ニービ）の岩盤を掘り込んで構築したもの。沖縄県師範学校の生徒が使用した「留魂壕」の坑口２ヶ所と、沖縄新報が陣中新聞を発行した「新聞壕」の坑口１ヶ所を確認。

2　銭蔵東地区

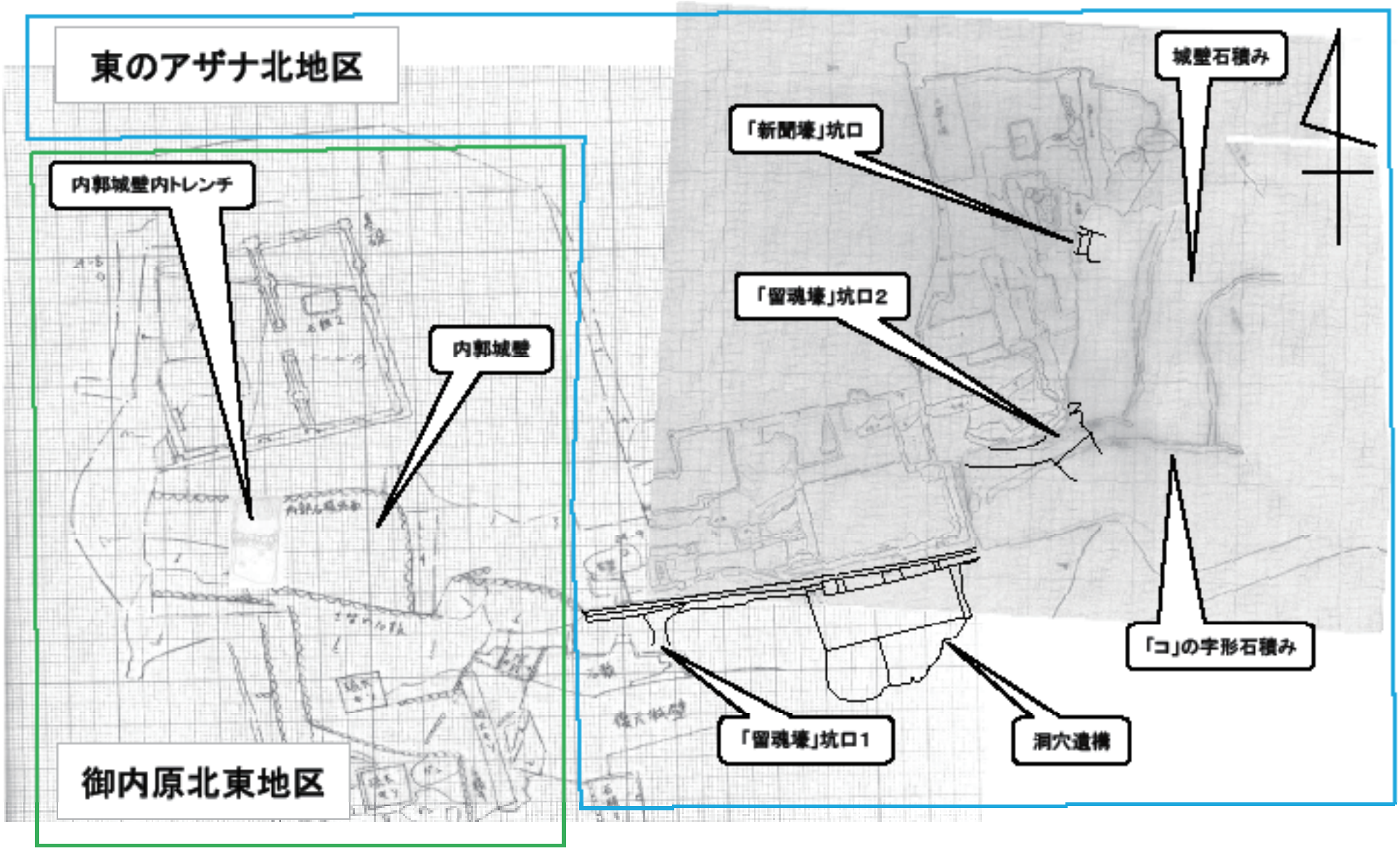
○石積み
※平成 23 年度検出遺構の北側延長部に相当。16 ～ 17 世紀に構築されたと考えられ、同所を東西に区画するための石積みと想定される。

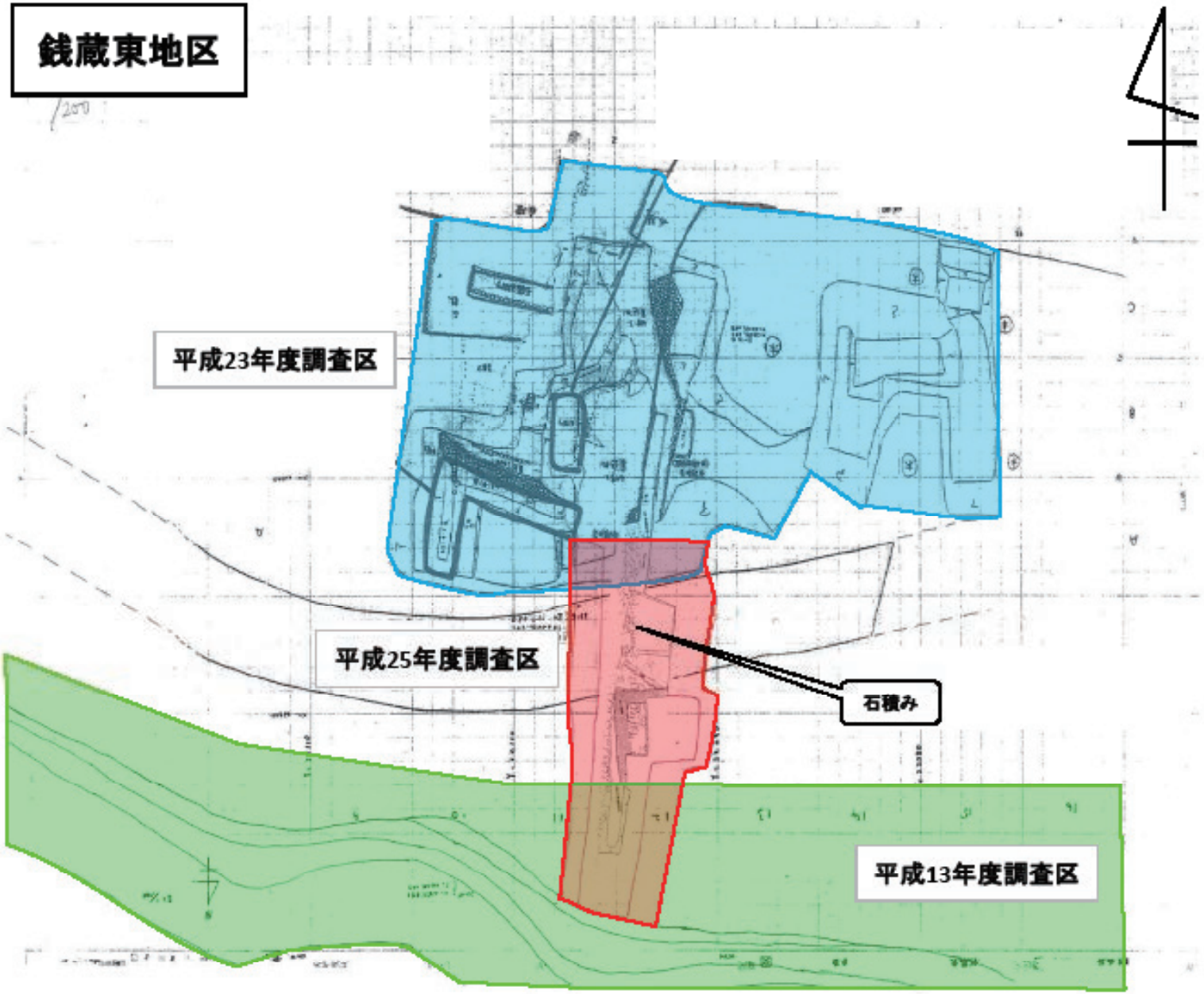
3　補足調査

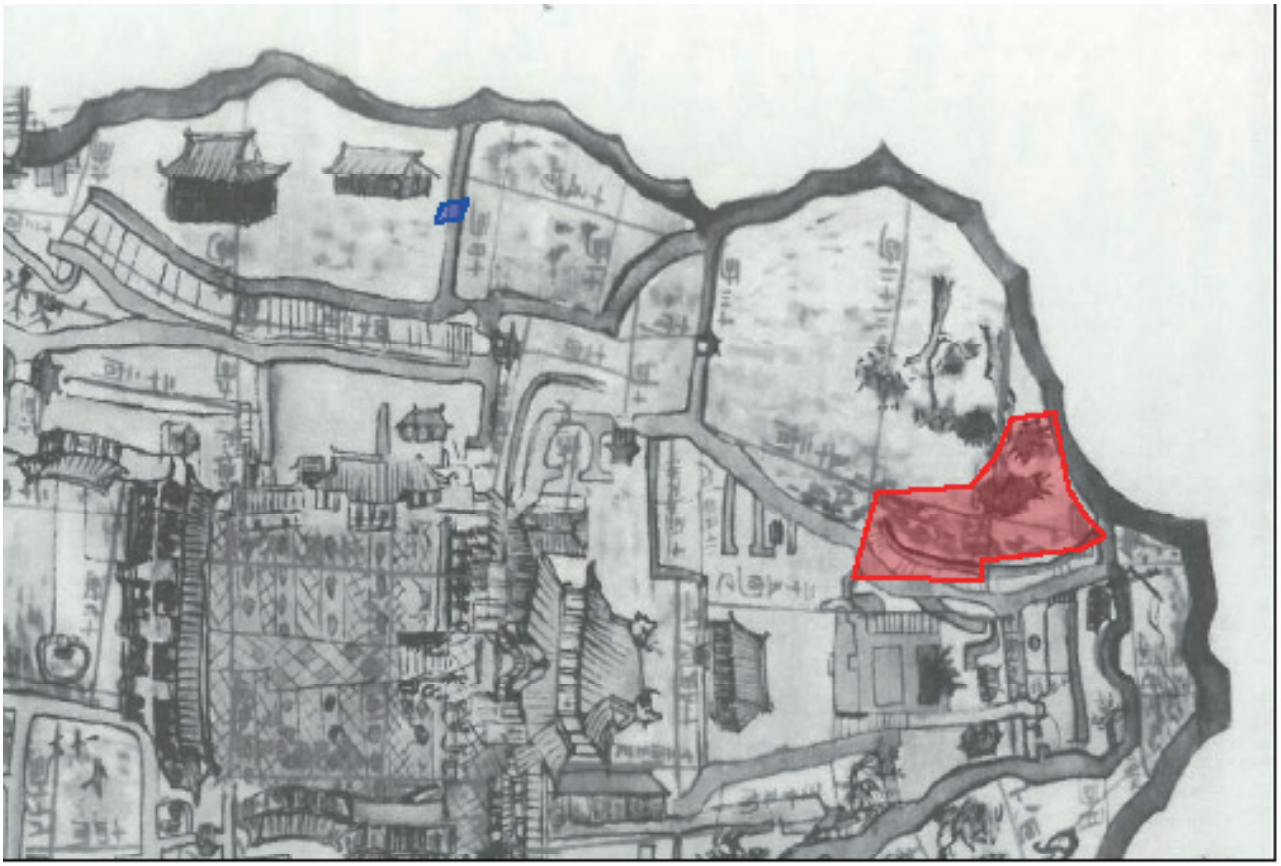
○御内原北東地区：内郭城壁の裏込めに試掘トレンチを設定・掘削。
○継世門北地区：継世門城壁（復元）の北隣に試掘トレンチを設定・掘削。

4　遺物

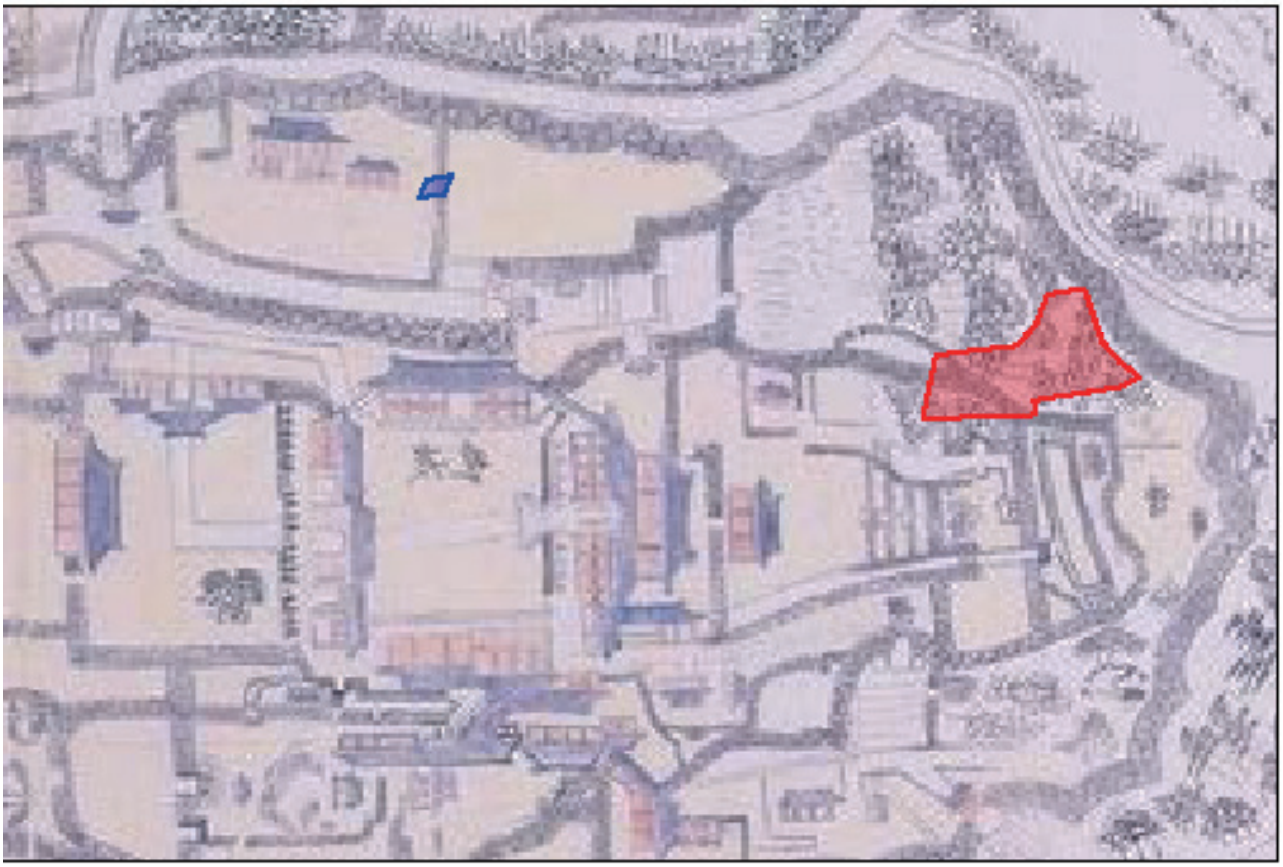
○陶磁器類：産地は中国・朝鮮・東南アジア・日本・沖縄など
※年代は 14 世紀後半～ 16 世紀と、近代以降に位置づけられるものが多い
○金属製品：鉄製品（鎖帷子）、青銅製品（銭貨・飾り金具）、金製品（厭勝銭）など
※金製厭勝銭・銅製銭貨→「城内十嶽」に関係する可能性が高いもの
※金属製活字→沖縄新報が新聞の作成・印刷に用いたもの
○自然遺物：獣魚骨や貝殻など→「ンナチカネー」の跡が残るヤコウガイ
○その他：石製品（石弾）、貝製品（匙）、骨製品など


東のアザナ北地区
内郭城壁内トレンチ
内郭城壁
御内原北東地区
城壁石積み
「新聞壕」坑口
「留魂壕」坑口2
「コ」の字形石積み
「留魂壕」坑口1
洞穴遺構


銭蔵東地区
平成23年度調査区
平成25年度調査区
石積み
平成13年度調査区

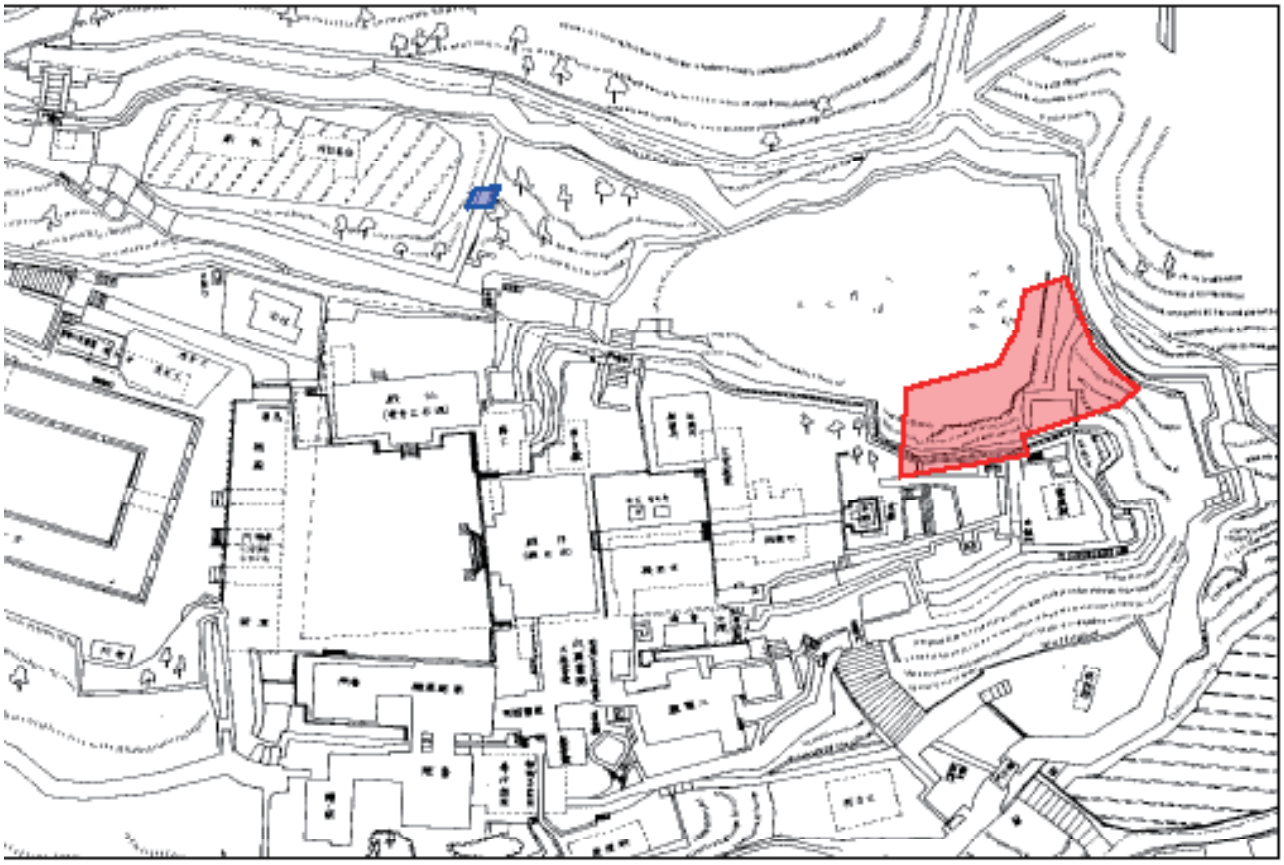


①「首里城絵図 (17 世紀後半～ 18 世紀初頭作成)」にみる平成 25 年度調査範囲



②「首里古地図 (18 世紀初頭作成)」にみる平成 25 年度調査範囲

③「沖縄県首里旧城図 (明治初期頃作成)」にみる平成 25 年度調査範囲



④「旧首里城図 (昭和 6 年頃作成)」にみる平成 25 年度調査範囲

沖縄県立埋蔵文化財センター

行事予定のご案内

関連文化講座

第 60 回文化講座

■発掘調査速報 2014　その 2

日時 : 平成 26 年 11 月 29 日 (土)　13：30 開始 (13：00 開場)

会場 : 当センター研修室　　講師 : 当センター職員

①戦争遺跡 (伊計島砲台跡・他)【本島内各地】
②県内遺跡 (船越原遺跡)【渡嘉敷村】
③基地内文化財 (喜友名東原第四遺跡・他)【宜野湾市】
④白保竿根田原洞穴遺跡【石垣市】
※先着 140 名　予約等不要・参加無料

今後の催しのご案内

◇「白保竿根田原洞穴遺跡」関連イベントを企画中です。

企画展

■「白保竿根田原洞穴遺跡」関連企画展 (予定)

日時：平成 27 年 1 月頃

会場：沖縄県立埋蔵文化財センター企画展示室

講演会

■「白保竿根田原洞穴遺跡」関連講演会 (予定)

日時：平成 27 年 1 月頃

会場：沖縄県立埋蔵文化財センター研修室

講師：未定

※先着 140 名　予約等不要・参加無料

※詳細が決まり次第、当センターホームページやマスコミ等を通じて広報致します。

沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7 （琉球大学附属病院横）

TEL 098-835-8752

FAX 098-835-8754

●開所時間　　午前 9 時～午後 5 時まで（入所は午後 4 時 30 分まで）

●休 所 日　　毎週月曜日、国民の休日（こどもの日、文化の日を除く）
年末年始（12 月 28 日～ 1 月 4 日）、慰霊の日（6 月 23 日）
※祝日と月曜日が重なった場合は、翌火曜日も休所